

事業所へのアンケートに係る協議結果（部会会議録抜粋）

会議名称	令和5年度 第2回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会		
開催日時	令和5年8月9日（水）14:00～15:00		
開催場所	オンライン		
出席者等	委員：小椋委員、鈴木委員、山岡委員、石川委員、杉山委員（欠席）、藤原委員 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事		
傍聴の可否	不可	傍聴者数	—
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 事業所へのアンケートについて (以下略)		
会議結果	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 事業所へのアンケートについて</p> <p>○事務局A 設問を少なく、選択肢を多くし回答率、回答数を上げるのがいいと考える。具体的には「1、精神障害者へ支援をしているか。YESかNO」「2、支援していない場合、理由について 選択肢を可能限り列挙+自由記載」「3、どのような補助・支援があれば支援できるかについて 選択肢を可能限り列挙+自由記載」「4、支援している場合、苦勞している点 選択肢を可能限り列挙+自由記載」と考えている。また、インターネットでの回答を可能とすることも検討している。案を皆に提示しようと考えている。</p> <p>○委員 調査範囲を考えるべき。具体的には精神障害者が子供の場合は支援する家族も調査対象とするなど。</p> <p>○事務局A 選択肢が複雑になってしまうことに留意すべきではないか。また、調査対象は障害福祉事業所であるが。</p> <p>○事務局B このアンケートの目的が、事業所に支援をしたうえでの成功事例や工夫をした点を聞くのがそもそもの意図なので、選択肢で思いつくものを聞くのは趣旨から外れるのではないか。傾向を集計するのではなく、事例を集める観点からは自由意見があったほうがいいのではないか。</p> <p>○委員 協議会の全体会で目標設定をしようという話があった。その目的のためのアンケートとすると、自由記載でやる場合は内容を絞ったほうがいいのではないか。私が聞きたいのは長期入院していた方を地域の皆で支えていくなかで、市内の事業所から具体的な支援事例を挙げてもらい、結果支援対象者が入退院などを繰り返さず生活できたなど事例を自由記載してもらおうなどで絞ったほうがいい。それが協議</p>		

	<p>会の目標と合致すると考える。</p> <p>○事務局B 選択肢を減らして負担を軽くしていくべきか。</p> <p>○事務局A まとめると、現状の支援の有無と、苦労している事例、支援しない理由、成功事例を自由記載で聞く。他に何か聞いておくべきことはあるか。</p> <p>○委員 調査対象先は決まっているのか。相手によって質問内容を変えたりする必要があると思うが。</p> <p>○事務局A 現状ではヘルパー派遣事業所、計画相談事業所、通所事業所あたりを検討。追加すべき場所があれば伺う。グループホーム、訪問看護を含めるべきか。</p> <p>○委員 訪問看護は地域生活において軸になる。アドバイスや事例などが期待できる。</p> <p>○事務局A すると派遣事業所、計画相談事業所、通所事業所、グループホーム、訪問看護とする。すべて市内の事業所のみでよいか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>○事務局A ではそうする。次に聞き取りする内容だが、自由記載を多めで、支援しにくい理由、支援で苦労している点及び成功事例の3つ。</p> <p>○委員 どのような補助があれば支援できるか、の項目を自由記載で入れたほうがいいと思う。</p> <p>○事務局A 取り入れさせていただく。以上を踏まえたたき台を市で作成し後日提案する。また、アンケートはインターネット上で回答できるように措置する予定である。</p> <p>(以下略)</p>
提出資料	なし